



## アジアの風

(アジア関係図書館だより2)

### アジア関係図書館の資料

棕梨 景智

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。

アジア関係図書館は、本学付属図書館の分館として国際交流会館（9号館）の2階に設置されています。

**アジア関係図書館とは** 国際交流会館は日本研究やアジア研究のために、京都を訪問する海外からの研究者に広く開放し、文化交流を推進するための拠点として建築されました。このようなことから、このアジア関係図書館でも、外国の方々に開かれた図書館であることを目指しています。

蔵書構成の地理的範囲は、スエズ運河以東から東アジアまで、北はウラル山脈から東は極東までになっています。特に、中国関係の和漢書と洋書をメインに、コリア関係図書、東南アジア、中近東資料があります。また他にも、ヨーロッパ言語で書かれた日本研究資料コレクション「ニッポナリア」や留学生向けの日本語図書、学術雑誌のバックナンバーなどを所蔵し、アジア研究の拠点になっています。

**中国関係コレクション** 近年における中国の国際社会との関係は、ますます緊密度を増しています。日本との経済、文化、学術交流も進展し、我が国の中国研究の動向は内外で注目され、さらにその発展が求められています。このような中で、当館では外国語学部中国語学科のカリキュラムに沿った資料、授業内容、その他にも教養科目を支援する資料を多数所蔵しています。

**ニッポナリア・コレクション** 13世紀末にマルコ・ポーロが『東方見聞録』で、日本を「黄金の国ジパング」と紹介しました。その後の安土桃山時代にイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが来日してからは、ヨーロッパとの交渉が深まり、日本を訪れたポルトガル、スペインの宣教師たちにより多くの布教報告書が書かれました。江戸時代になると、オランダが交易を独占し、オランダ人による日本研究書が増加しました。明治時代に入ると、政府などが雇った御雇外国人や外交官として来日した人の中に、傑出した日本研究者が現れました。やがて西洋化に成功した日本は、幅広い分野で研究される立場となり、欧米の人たちは「日本(日本人)研究」として高い業績をあげました。当館はその成果を、数多く所蔵しております。

**スルタン=ハミド・コレクション** 本学ではかねてから中東研究が意欲的に行われて来た結果、歴史的に重要な資料が多く蓄積されています。中でもスルタン=ハミド・コレクションは前述の中東研究史料で、アラビア語・ペルシャ語・トルコ語の写本からなっています。特にアラビア語写本の中には、イスラーム法学・宗教関係書が多くを占めています。次いで多い文法書の中には、少数ではありますがキリスト教徒による著作も含まれています。

**京都国連寄託図書館と共に** 館内の閲覧室座席数は40席あり、同じフロアにある京都国連寄託図書館と共に、様々なサービスを行っています。ぜひ、一度来館してください。館員一同、多くの学生の皆様に活用していただくことをお待ちしております。

むくなし かげとも（司書教諭・主幹）